

関ヶ原合戦図屏風 紙本著色 六曲一双

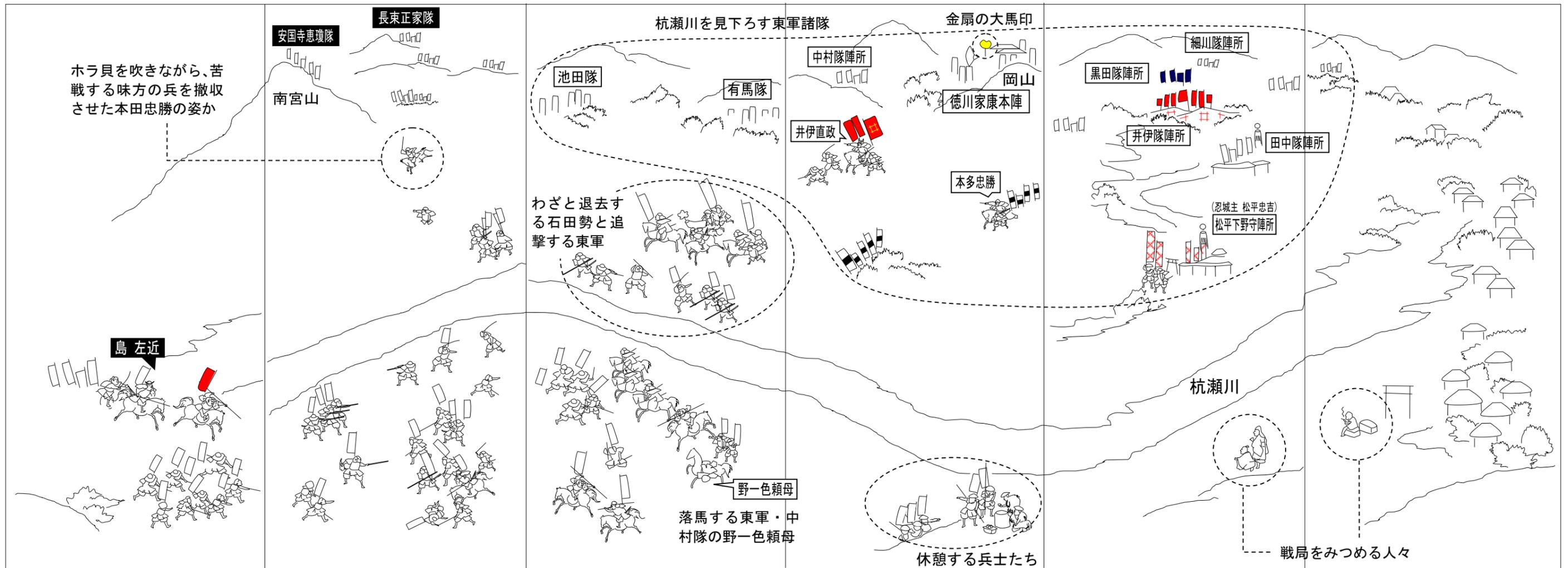
埼玉村(行田市埼玉)の旧家湯本家に伝来したもので、明治期の当主湯本義憲が岐阜県知事を勤めた際、現地で贈られたものである。作成時期は幕末。

右隻で慶長5年(1600)9月14日の杭瀬川の戦い、左隻で翌15日の関ヶ原での決戦を描いたもの。杭瀬川と関ヶ原の戦いを一対にした屏風は元来、美濃大垣藩主戸田家の周辺で作成されたもので、左隻は彦根藩井伊家などに伝来した屏風の構図を元にして、これに戸田家の城下で行われた杭瀬川の戦いを右隻として加えて完成させたものが写されていて考えられている。

右隻(9月14日)

昼頃、徳川家康は美濃国赤坂(岐阜県大垣市)に到着し岡山に陣を置いた。大垣城にいた西軍はこれに対抗して、大垣の東を流れる杭瀬川を隔てて陣をはる東軍を挑発し、戦いに引きずり込んだ。杭瀬川を渡って深追いした東軍を待ち受けるように、石田三成の家臣島左近ひきいる西軍の伏兵が現れた。東軍は野一色頼母ほか30余名の首級をとられ、西軍の圧倒的な勝利となった。これを聞いた家康は、三成の居城佐和山城を討つとの情報を流し、全軍を関ヶ原へ移動させた。

□ = 東軍(徳川家康軍) ■ = 西軍(石田三成軍)



六扇

東軍に反撃する島左近隊を描いている。中央馬上の人物が島左近。この戦いは家康が東軍に撤退を命じ、西軍も日没により追撃しなかった。関ヶ原の合戦の初戦となる杭瀬川の戦いは西軍の勝利に終わった。

五扇

西軍の反撃に逢い敗北する東軍を描いている。杭瀬川を渡った東軍は宇喜多秀家の武将明石全登の指揮する800の兵に反撃された。鉄砲撃を打ちかけているのは島左近の部隊。画面上方には長束正家、安田寺恵瓊隊らの旗がみえる。

四扇

西軍の挑発にのった東軍の中村一栄、有馬豊氏の部隊が杭瀬川を渡り西軍を追撃している。しかし、待ち受けていた石田三成の家老島左近の反撃に逢い30人余りが討たれた。右下で落馬している人物は中村一栄の家臣野一色頼母。

三扇

最上部、金扇の大馬印が描かれている所が徳川家康の本陣である。その左は中村一栄の陣所。その下に赤い甲冑を身に着けた井伊直政の部隊と本多忠勝の部隊が中村隊の救援に向かっている。

二扇

中央に松平下野守と書かれている陣所がある、そこから兵士が出撃している。中村一栄隊の救援にむかうためであろうか、その上部に田中吉政、井伊直政、黒田長政、細川忠興の陣所が描かれている。

一扇

戦場に選ばれた村々は戦いから逃れるため無人の里と化してしまう。この一扇目の池尻村は現在の大垣市池尻町であり家康本陣のあった岡山とは杭瀬川を挟んで対岸にある。煙草をふかしながら戦局をみつめる旅人が描かれている。